

国際ロータリー-第2510地区千歳ロータリークラブ

「千歳ロータリーの森林（もり）」 生い立ちと経過報告」

2022年3月24日

会長 : 斎藤えみこ
副会長 : 前田浩志
幹事 : 佐々木義朗

卓話 : 平間和弘 分収造林組合組合長

協力 : 小野田禎久・井溪利光 吉岡毅 (株)ツヨシオカスタッフ

環境保全委員会 : 武石考司・菅原正行・稲川和伸

2 経緯（計画～植樹）

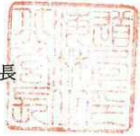
| 時期 | 会長 | 出来事 |
|-------------------------------|------|--|
| 1990(平成2年) ～ 1991(平成3年) | 佐藤秀雄 | <ul style="list-style-type: none">・RI会長パウロV.C.コスタ氏(ブラジル)が環境保全委員会を発足。これを受けて千歳RCでも環境保全への取り組みを検討・千歳RC分収造林組合設立を決定。(初代組合長 丹治秀一氏) |
| 1991年(平成3年) 6月～7月 | 山田睦雄 | <ul style="list-style-type: none">・北海道営林局長あて分収造林契約の申込手続き開始→内定 |
| 1991年(平成3年) 9月～10月23日 | | <ul style="list-style-type: none">・分収造林契約の申込書提出、契約成立 |



3 札管第 4 3 9 号
平成 3 年 1 0 月 2 3 日

国際ロータリー・千歳クラブ
分収造林組合 組合長 丹治 秀一 殿

北海道営林局長



分収造林契約について

先に送付されました分収造林契約書により契約が成立しましたので、
その 1 通を送付します。

〔担当：管理課地域振興係〕

2510地区、千歳ロータリークラブ

様式分第 8 号

分収造林契約書

北海道営林局長 原 喜一郎 (以下「甲」という。)と造林者
国際ロータリー千歳クラブ分収造林組合組合長丹治秀一 (以下「乙」という。)とは、
国有林野法(昭和 26 年法律第 246 号、以下「法」という。)及び国有林野法施行規則
(昭和 26 年農林省令第 40 号、以下「規則」という。)に基づき、別紙条項を約定して、
下記のとおり分収造林契約を締結したので、その証として本書 2 通を作成し、双方記
名押印の上、各その一通を保有する。

平成 3 年 1 0 月 2 3 日

北海道営林局長

原 喜一郎



住 所

千歳市千代田町ノ丁目
西洋軒内

造林者

氏 名

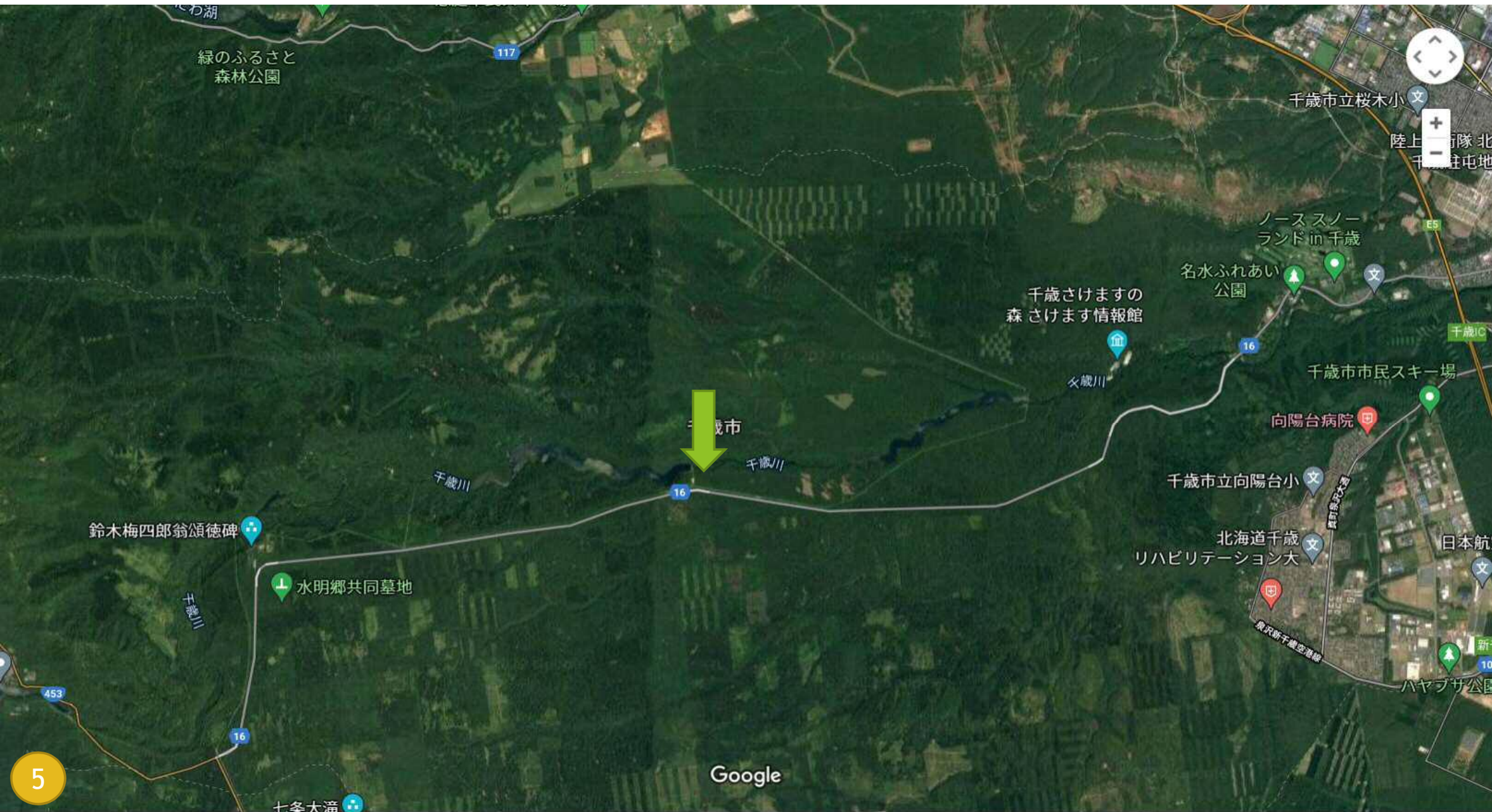
国際ロータリー千歳クラブ
分収造林組合
組合長 丹治 秀一



契約概要

- ▶ 契約者 : 北海道営林局長 北海道森林管理局・署
- ▶ 場所 : 千歳市蘭越恵庭事業区5372林班との位置
- ▶ 面積 : 2,811ヘクタール(約3町歩弱)
- ▶ 期間 : 平成3年10月～平成83年(2071年)9月まで80年間
- ▶ 植栽樹種: アカエゾ松 7,300本
- ▶ 伐採期間: 平成83年9月皆伐とする。(令和53年)
- ▶ 収益分収の割合: 国10/100・千歳RC90/100とする。
- ▶ 分収林の種類 : 「みどりの日」(5/4)制定記念分収造林とする。

| | |
|-----------------------|--|
| 1992年(平成4年) 5月17日 | ・アカエゾ松苗木7,300本を植栽 千歳RC会員(121名)、会員家族、千歳RAC会員、恵庭営林所長外(10名)、ボランティアの方合わせて150名の協力による |
| 1992年(平成4年) 9月(命名) | ・農林水産省、林野庁企画課より「千歳ロータリーの森林(もり)」と名づけ業界紙に紹介された事により今日に至る。 |



6



千歳川

千歳川

孵化場入口 バス停

16

16





慣れぬ仕事。頑張りました



女性も大活躍



どうも木の株が邪魔で



ボランティア、千歳ローターアクトの方々も応援



「こうやって植えるのです」、と恵庭営林署の職員からアカエゾマツを植えるコツの説明(1992・5・17)



経緯（植樹から10年目）

| 時期 | 会長 | 出来事 |
|---------------------------------------|---|--|
| 1992(平成4年) ～ 1999(平成11年) 7年間 | 92高慶繁博 93沼山佐太郎 94長澤邦雄 95須藤文夫 96木村照男 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎年春(6月)と夏(8月)の2回、早朝移動例会により下草刈りを実施 ・平成11年5月には肥料まきを実施 |
| 1999(平成11年) ～ 2002(平成14年) | 97藤谷信弘 98大沼三郎 99中村堅次 00上井昭一 01横田義弘 | <ul style="list-style-type: none"> ・苗木の成長(高さ2.5M)著しい ・雑木の小枝・つる切り作業実施 ・一部間引調整も実施 |
| 2002年 (平成14年9月) | 02村松克重 | <ul style="list-style-type: none"> ・森林国営火災保険更新手続き（契約期間10年間） 115,000円 |
| 2002年(平成14年) ～ 2008年(平成20年) | 03佐々木昭 04服部隆志 05中山和朗 06五十嵐宏 07福田武男 08末廣孝 | <ul style="list-style-type: none"> ・環境試験木のビニール袋敷設等を2箇所設定し一部間引を実施 |



植たあとは毎年下草刈り (1992・8・13)



▲植林後初の下草刈り (1992/8/13)



すくすくと育つアカエゾマツ



森林と人との共生、森林資源の循環利用などの観点からこの事業を重視した当時の北村實地区ガバナー（故人）が現地を視察。高慶繁博会長年度、説明するのは丹治秀一環境保全委員長 (1992.9.17)



ローターアクトも積極協力して下草刈り



80年にわたっての「ロータリーの森」づくりで、千歳RCが第2510地区大会で富原薫ガバナーから表彰。受賞した長澤邦雄会長と丹治秀一地区環境保全委員会委員 (1995・4・23)



▲看板の建て替え (2005/7/3)



▲初めての下枝切り作業 (2008/6/12)

◆ 1枚のビニール袋でも樹木の生育に悪影響が・・・

前回にもお話をしましたが、2002年（平成14年）10月、丹治組合長と私の二人で、試験木を2箇所に設けました。同じ時に植えた木ですが木の根元にビニールで覆った状態にしたら経年でどのような結果が出るかを試すために実施しました。いわゆる無造作に捨てられるビニールなどが木の生育に与える影響をビニールで覆われない木と比較する調査をした結果、見て分かるように木の根元がビニールに覆われると成長が悪いことは一目瞭然です。10年でこれほど違うと言うことで、1枚のビニールが樹木の生育に与える影響は大きいものです。



山に入ったらゴミは捨てずに持ち帰りましょ

う。これが環境保全委員会としてのお願いです。

また、切り倒した木は年月と共に朽ち果てて土に戻ります。ビニール袋での試験木と同時に植林した赤エゾ松2本を切って朽ちる状態を観察して来ました。この2本の木は切り倒してから10年程経ちこのように朽ち果てますが、これが肥料になり、他の木の養分となって木は大きく成長するものです。

昨年、分収造林の赤エゾ松の高さは10m80cmでしたが今年は12mを超えています。

12 経緯（10年目～20年目）

| 時期 | 会長 | 出来事 |
|-----------------------------------|------------------------------|---|
| 2005年7月2日 (平成17年) | | ・道道支笏湖線右側の分収造林入口の大看板の柱部分が腐食したため大補修改修を実施 |
| 2008年(平成20年) | 08末廣孝 | ・成育状態の確認:7.5M程度（下枝切作業が必要） |
| 2008年(平成20年) ～ 2011年(平成23年) | 09岩崎輝久 10佐々木金治郎 11今村静男 | ・早朝例会で80cm下の枝切作業を春(6月)、秋(10月)の2回、4年間実施 |
| 2012年(平成24年9月) | 12村田研一 | ・森林国営火災保険更新手続き（契約期間10年間） (99,500円) |
| 2012年(平成24年) 10月25日 | | ・間伐3,500本 ・下枝払作業(10/2～10/25まで)3,600本 ※道庁の補助事業活用・千歳森林組合による作業 724,000円－623,400円＝100,600円 |

2010



下草刈りを行う岩崎会員



余分な枝を運び出す末廣会員と村上会員



作業を行う佐々木会長



下枝払いを行う沼田会員



伸び過ぎて邪魔になる枝を切ります



熊がひっくり返していった切り株を調べています



こちらにも枝が残っていました



春の伐採後に残っていた枝を運び出します



菅原会員も大活躍です



皆さんお疲れ様でした！



大量のきのこに大喜びの五十嵐会員と藤本会員



作業車を操作する菅原会員

2011.6



ロータリーの森林に持ち込まれた高所作業車



作業車バケットからの展望



作業車バケットからの展望



上昇するバケットには丹治組会長



枝払い作業をする村上会員



春先のシイタケを手にする佐々木会長

16



※機械で作業する平間委員長と稲川委員
2013~2014



※中央の通路には、それ程長い草は生えていませんでしたが・・・その脇道には膝ほどの長さに育った草が・・・



2015

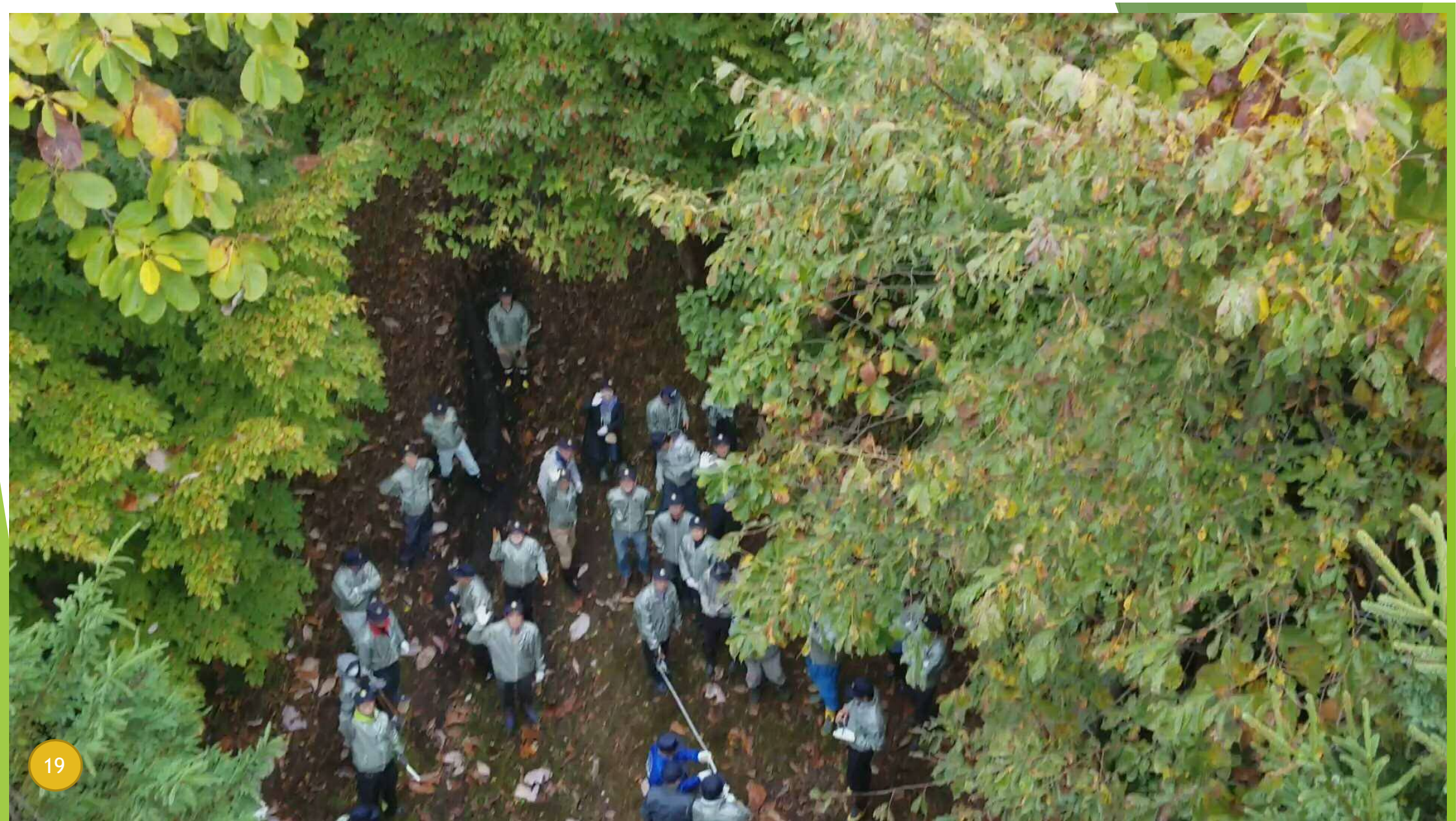


経緯 (20年目から30年目)

| 時期 | 会長 | 出来事 | | | | | | | | | | | | |
|-----------------------|-------------------------------------|---|--|-----|------|----|-----|--------|----|-----|------|----|-----|-------|
| 2012年(平成25年) 6月 | | 成育状態の確認: 11.5M程度 (順調に成長) | | | | | | | | | | | | |
| 2016年(平成28年) 9月30日 | 13川端清 14藤本敏廣 15沼田常好 16大西信也 | <p>・成長木のカウント記録野帳を作成 平間委員長・稲川副委員長、2名で 4時間かけカウントした。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>植林列</th> <th>成育本数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>左側</td> <td>52列</td> <td>2,838本</td> </tr> <tr> <td>右側</td> <td>22列</td> <td>702本</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>74列</td> <td>3540本</td> </tr> </tbody> </table> <p>※3,540本間伐以後、外周雑木により成長被害木を除く</p> | | 植林列 | 成育本数 | 左側 | 52列 | 2,838本 | 右側 | 22列 | 702本 | 合計 | 74列 | 3540本 |
| | 植林列 | 成育本数 | | | | | | | | | | | | |
| 左側 | 52列 | 2,838本 | | | | | | | | | | | | |
| 右側 | 22列 | 702本 | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 74列 | 3540本 | | | | | | | | | | | | |
| 2017年(平成29年) 6月27日 | | ・道々支笏湖公園線沿い分収造林入口の看板補修改装 | | | | | | | | | | | | |
| 2017年(平成29年) 10月5日 | 17瀧澤順久 | 成育状態の確認: 14.8M程度 (順調に成長) | | | | | | | | | | | | |



新しい看板の前で記念撮影



| 時期 | 会長 | 出来事 |
|------------------------|------|---|
| 2018年12月13日 (平成30年) | 今野良紀 | 林野庁 北海道森林管理局 石狩森林管理署 千歳森林事務所 岡部森林官へ訪問(平間副組合長・菅原正行委員長・武石考司副 委員長・稲川和伸委員) |
| 2019年4月18日 (平成31年) | 藤川俊一 | 王子製紙株式会社 苫小牧工場 動力部 動力課 武久副長へ訪 問 (平間副組合長・菅原正行委員長・武石考司副委員長・稲川 和伸委員) |
| 2019年6月26日 (令和元年) | | 平間和弘氏、2代目分収造林組合の組合長に就任 |
| 2020年(令和2年) | 伊藤一三 | 分収造林中央大通の両側の下枝切作業(4.5M-136本) 平間組合長単独で10日間掛けて実施 (分収造林組合長就任記念として) 後に、この作業がもとで体調を崩される。 |

| 時期 | 今後の予定 |
|-------------------|--------------------------|
| 2022年9月 (令和4年) | 森林国営火災保険 契約更新手続 千歳森林組合にて |
| 2028年(令和10年) | 間伐予定年度 |
| 2033年(令和15年) | 間伐予定年度 |
| 2071年 (あと49年) | バイオリン・ピアノの制作 |